



いずみこども園だより

5月号

令和8年4月30日
千代田区立いずみこども園
園長 横澤 峰紀子



いずみこども園
ホームページ
QRコード

【教育目標】 元気な子ども やさしい子ども ☆考える子ども

— 人を笑顔にする、子どもたちのおもいやり算 —

乳児副園長 村田 靖孝

園庭を渡る風が心地よく、新緑がまぶしく感じられる季節となりました。進級・入園から一か月が過ぎ、子どもたちは新しい環境の中で、少しずつ自分らしい過ごし方を見つけ始めています。

砂場では、スコップを「どうぞ」と差し出す姿があり、滑り台では「いっしょに遊ぼう」と声をかけ合う姿が見られます。誰かの手助けが加わることで遊びが広がり、楽しさがぐんと大きくなる瞬間です。

また、当番活動では「ぼくがやるよ」「わたしが手伝うね」と役割を引き受ける姿もあり、その小さな一歩が、周りのうれしそうな表情につながっています。遊びの中では、思いがぶつかる場面もあります。それでも、「ごめんね」「いいよ」と気持ちを分け合い、いたわり合いながら、また一緒に笑顔で遊び始める子どもたちの姿があります。声を掛け合い、力を合わせることで、いつの間にか一人ではできなかったことが、みんなでできるようになっていきます。

毎日の園生活の中で繰り返される、一つ一つの出来事はとても小さく見えますが、それらは確実に積み重なっています。靴を履くことに何度も挑戦したり、同じ遊びを何日も続けたりするうちに、ある日ふと「できた！」という瞬間が訪れます。その歩みはゆっくりでも、子どもたちの中で確実に力となり、自信として育っていきます。

『+ たす』たすけあうと 大きな力に

『- ひく』ひきうけると 喜びが生まれる

『× かける』声をかけると ひとつになれる

『÷ わる』気持ちが交わると 笑顔になる

日々の小さな関わりが、子どもたちの安心と笑顔につながっていきます。



5月のまぶしい陽ざしの下、子どもたちは砂場で力を合わせて山を作ったり、友達と声をかけ合いながら鬼ごっこをしたりと、伸び伸びと遊びを楽しんでいます。遊びを通して、人と関わる喜びや、相手を思いやることで生まれる温かさを、日々の経験の中で自然と学んでいる姿が見られます。

私たちは、その一日一日を大切に受け止め、「できた！」と目を輝かせる瞬間や、悔しさを乗り越えようとする姿に寄り添いながら、小さな成長の積み重ねが大きな実りにつながるよう、これからも丁寧に見守っていきます。

5月も園とご家庭とで子どもたちの育ちを分かち合いながら、笑顔あふれる温かな時間を重ねていければ幸いです。

ゴールデンウィークが始まりました。連休明けは、4月の緊張や長期休暇の疲れが出て、心身ともに不安定になることがあります。休み明けに元気に登園できるよう、生活リズムを整え、無理のないスケジュールを心がけていきましょう。皆さま、どうぞ楽しい連休をお過ごしください。

新学期を頑張ってきた子どもたちの心と体を、ゆっくり休める時間となりますように。